

平成 25 年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校 5 年）

【国語】★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	「話し方の工夫を考えながら、話の内容を聞くことができる」に対する正答率が低かった。	日常的に「話す、聞く」活動を取り入れ、話の要点の聞き取り方や内容を聞き取りやすい話し方の工夫について、継続して指導する。
漢字	漢字の読みについては正答率は高めだが、漢字の書き取りについては正答率が低い傾向にある。	新出漢字の習得だけでなく、既習漢字を反復練習する。また、日常の表現指導（ノート、作文、日記）においても漢字を使う指導の徹底を図る。
言葉の学習	ことわざの使い方や句読点の打ち方に対してはよく理解しているが、漢字の成り立ちに対する理解が不十分である。	漢字の成り立ちの種類について確認し、理解を深めさせる指導を継続していく。
物語の内容を読み取る	物語の内容を読み取ることにについては、概ねよくできていたが、登場人物の気持ちを読み取る問題では、きちんと心情を読み取れていない児童もみられた。	文脈に沿って、場面の情景や登場人物の気持ちを読み取っていく指導を継続しながら、難解な語句や慣用句などを小まめに取り上げ、豊かな語彙を身に付けさせる。
説明文の内容を読み取る	説明文の内容を読み取ることにについては、市の平均を上回っているが、文章の構成をとらえながら、内容を的確に読み取ることにについては、やや正答率が低かった。	説明文の読み取りを行う際には、段落と段落の関係や役割について考えさせ、要点をまとめて、内容を整理できるように指導していく。
資料と話し合いの内容を読みとる	正答率については、市の平均とほぼ変わらないが、求められている情報を的確に取り出したり、話し合いの内容を正確に読み取ることにに対する理解は十分ではない。	資料を読み取る際に、何についての資料なのか、その資料がどんなことを表しているのかについて、話し合って考える機会を増やしていく。
作文	自分の意見とその理由を区別して、作文を書くことはできていたが、指定された長さや段落構成でまとめて書くことがあまりできていなかった。	指定した長さで書くことや、段落構成を指定して文章を書く練習を積み重ねて、文章力を高めていきたい。

【社会】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	主な世界の大陸や海洋の名称や位置は概ね理解しているが、日本の特色ある気候について資料から適切な判断をすることに対する正答率は低かった。	日本の気候について、その土地の環境と関連させながら、グラフや写真などの資料を活用し、確認させる。
農業や水産業	日本の米作りや漁業について、資料をもとに読み取る問題はよくできていたが、資料をもとに理由などを考察する思考力・判断力が十分でない。	資料を読み取る際に、なぜこのような変化がみられるのか、理由を話し合う場を設け、変化の背景にあるものも十分理解させる。
工業生産	自動車工業については、よく理解しているが、日本の工業生産と貿易については正答率が低かった。	日本の食糧生産や工業など既習の学習と結びつけながら、工業の盛んな地域、貿易の特所について理解を深めさせていきたい。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	小数のかけ算、わり算、分数のたし算、ひき算の計算の仕方については十分理解できていた。しかし、分数と小数の大小を比較する問題の正答率は低かった。	分数や小数の大きさについて、図や数直線を用いて、理解を深めるとともに、分数を小数に、小数を分数に置き換える計算について、きちんと復習させる。
量と測定	立方体や直方体の体積や平均を求める問題は概ねよくできていたが、単位量あたりの数量を求める問題では文章を正しく読み取れず、立式を誤ってしまい、正答率が低かった。	問題を読んで、正しく式を立てられるように、繰り返し文章問題に取り組ませる。また、問題を図や数直線に表す練習なども行い、読解力も向上させていきたい。
図形	図形の辺どうしの関係については、よく理解できているが、多角形の残りの角を求める問題でつまづいている児童もみられた。	三角形の内角の和が 180 度であることをしっかり確認させ、それをもとに多角形の角の和を求めることができることをきちんと理解させる。
数量関係	ともなって変わる 2 つの数量の関係を表や式に表すことはよくできていたが、計算のきまりを十分に理解していない児童もみられた。	カッコがある式や、＋、－、×、÷の混じった計算では、どの順番で計算するのか、きちんと復習させ、練習問題をたくさん解かせ、慣れさせていく。

【理科】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	水はあたためられると早く蒸発することや金属の熱の伝わり方、水を加熱するときに沸騰石を入れる理由など、実際に実験した内容についてはよく理解できていた。しかし、冷たい水が入ったコップに水滴がつく理由や水の入ったペットボトルを凍らせると危険な理由については、正答率が低かった。	実験を行い、実際に体験したことは知識として十分身につけることができているが、その結果だけで理由までは十分に定着していない。実験をしたあとは、結果について話し合い、考察する場を設けていく必要を感じた。また、この「物質・エネルギー」は 4 年生で学習した内容で、学習してから 1 年の時間の経過とともに忘れられてしまったとも考えられるので、時間をとって、しっかり復習させたい。
生命・地球	メダカのオスとメスの違いやメダカのたんじょうのしかた、流れる川が石や土を運ぶはたらきについては、よく理解できていた。しかし、顕微鏡の使い方では、顕微鏡の倍率を求めることの正答率が低かった。また、対照実験についても、実験をする際に、何の条件を変え、何の条件を同じにするか、十分理解できていない児童もみられた。	顕微鏡の使い方では、再度顕微鏡の使い方を確認し、一人ひとりがきちんと自分で操作することで、使い方に対する理解を深めたい。対照実験については、ただ教科書をみて実験の準備をするのではなく、自分たちで考えて実験方法を見つけ出せるように考えたり、話し合いさせたりして、実験の仕方をきちんと身につけさせていく。